

添付書類

## 事業報告

(平成19年11月1日から平成20年10月31日まで)

### 1. 企業の現状に関する概要

第1期が設立後間もなく終了し、企業活動として実質的に進められた第2期は、当社代表取締役の瀧口義浩の光産業創成大学院大学における講義と大学教員業務、および各種社会的貢献活動（学会活動、地域の子供たちへの出前授業など）の終了後の時間を用いて活動を進めて参りました。ここには、“大学院としての光企業家育成の活動”と、“独立した会社法人の光技術営業展開活動”といったコンフリクトする課題を克服するための努力が必要でありました。その中で、独自のやり方で企業実践を行うことで新しい光産業を創成するのだ、という強い思いがあってこの1年を乗り越えてくることができました。当社の定款にあるように、光技術を用いた装置開発では、代表取締役である瀧口義浩の出向元である浜松ホトニクス株式会社の業務に抵触することなく、逆に、浜松ホトニクス株式会社では実現できない小回りの効いた事業展開を行ってきております。大きな市場を作る前の、先行事例創出を行うことで、社会的に光技術の有用性を示し、それをより大きな市場に発展させる可能性が見えた段階で、この技術を浜松ホトニクス株式会社に譲渡あるいはライセンスを行わせていただき、より広く産業展開を図るべく進めて参ります。これによりまして、浜松ホトニクス株式会社の従業員としての株主様への期待に答えることとなり、さらには、光技術の発展の一助になるものと確信しております。また一方、同じく当社の定款にあるように、将来の光産業を担う若手あるいは子供達教育という重要な企業目標にも積極的に取り組んで参っております。幸いにも、光産業創成大学院大学や浜松ホトニクス株式会社を介しての出前授業の依頼や、あるいは、代表取締役の瀧口義浩自身の社会貢献活動を介してご依頼をいただき、それに対して行わせていただいた出前授業では、ご参加いただいたご父兄には光技術あるいは科学技術の重要性を理解してもらえたのではないかと、そして参加した小学生から高校生までの子供達には、科学の楽しさ、もの作りの楽しさを感じてもらえたのではないかと、と期待しておるところであります。

### 2. 具体的企業活動

上記のような理念をもとに、実際の装置開発業務を進めることができました。第

2期には、名古屋大学をはじめとした学際からの装置開発依頼を受け、さらには、浜松ホトニクス株式会社本体からも装置開発依頼を受けて、新しい技術を導入しながら、それらのご要求に答えるべく努力をして参りました。ここでは、お客さまとの秘密保持状況もあり、開発して参りました全ての装置に関して言及できませんが、その開発における思いを以下のように報告させていただきます。

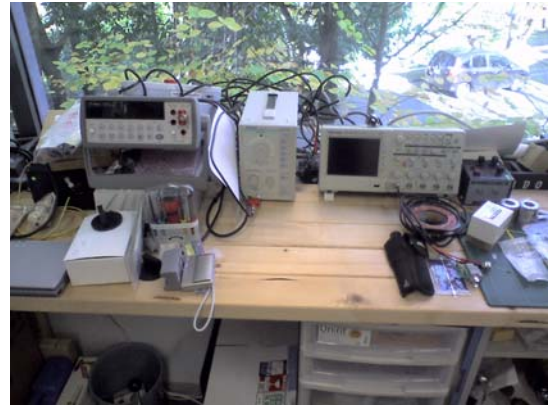
世の中にない装置を、限られた企業活動時間の中で開発するには、平日の午後5時以降と、土曜日と日曜日をどう有効に利用するかという点が重要でありました。光産業創成大学院大学の教員としての業務は、平日の午後5時以降にも開催される各種委員会などもあり、また、大学院主催の行事や企画イベントなどへの参画は、企業活動時間の減少につながり、やはり時間が足りなくなり、開発の性能が十分に上がりきれないと言う課題がでてきています。その意味では、ご注文をいただいたお客さまの温かな配慮を多々いただきながらの開発になっていることを、お客様に大変感謝する次第であります。とは言っても、お客さまに取っては、新たな装置により産業課題への挑戦であることは間違いなく、それをサポートできない装置を提案していたのでは意味がありません。常に、最高な装置開発を目指して、短い時間をより有効に使う努力をしていかねばなりません。

具体的な装置開発の一例として、名古屋大学エコトピア科学研究所の長谷川達哉先生よりご依頼があり、新規に開発している超小型の反射型応力検出画像装置があります。その動作の詳細はご紹介できませんが、既存の大型装置ではできない応力分布観測を、小型なCマウント型の装置にて達成することで、世の中でできずに困っている産業課題に新たな突破口を開くべく努力をしております。右の写真に示したのが開発致しました装置であります。高輝度白色LEDを照射光源としての観測装置になっています。写真のように、大きさは20cm x 10cm x 5cm程度と小型にすることができました。これを用いた各種実験評価が名古屋大学の長谷川先生のもとで進められております。それらの実験の中で、新たな構造改良などの必要性が見えて参りました。第3期にかけても、これらの装置をより完全なものとすべく、お客様と一緒に完成させていくつもりであります。また、これらの企業活動のなかで、長谷川先生より、新しいプロジェクトへの参画のご依頼をいただき、新規産業を創造するプロジェクト計画に積極的に参加させていただいております。



### 3. 設備投資の状況

第2期におけるこれらの企業活動においては、新しい装置を開発するためのハードウェアとしての試験機器の導入が不可欠となっております。そこで、第2期は、右図に示したようにオシロスコープや発振器、デジタルマルチメータやデシケータなどを導入させていただきました。上の写真では、電子回路の動作確認を行えるように、当社基礎研究所に設置した機器類であります。下の写真は、光学部品や光検出器などを乾燥条件で保管できるようにデシケータを用いています。当社基礎研究所の温湿度環境は決してよくないために、新規装置開発のためには、このような環境を持ち望んでいました。



現在の企業活動に不可欠な装置は、機械加工を行うための旋盤やフライス盤などがあげられます。当社の活動には、装置の筐体を小回りよく開発する体制が必要であります。基礎設計により作製した筐体も、実際の実験を行う過程で見直しが必ず出てくるものであり、その場で対応できる環境を早く作ることが必要であると考えております。そのために、期末になってから、小型の旋盤sと小型のフライス盤の導入を決定し、それらを設置するために、本社の隣にある作業場を賃貸する契約を締結することとしました。現在は、仮契約であります。装置の設置のスケジュールに応じて、作業場の環境保全を行いながら、早期に加工環境を整え、第3期以降の企業活動を活性化させたいと考えております。



### 4. 資金調達に関して

現時点で、お客様のご依頼を受けての装置開発による利益を持ちまして、設備および原材料の購入には問題はありません。ただし、新規事業を起こすためには、新たに資金調達を必要としてくると考えております。第3期においては、外部資金を獲得しながら、顕微鏡などに応用可能な新規光源などを開発していこうと考えております。第2期は、光の新規検出器開発を中心としてお客様の声に答えて参りました。

た。第3期は、当社からお客様に向けて新たな技術を発信していきたいと考えております。

当社のある静岡県では、今後20年間にに向けて、その地場産業の構造が変わるものと予想しており、そのような流れを考慮して、医療あるいは食品における安全・安心に当社の光技術を用いて貢献していきたいと考えております。

#### 4. 各種計算書類の記載の方針

当社の計算書類は、第2期の最終月より委託を開始した税理士である神谷好人氏との議論のもとに、発生主義の管理方式、青色申告の開始、現金管理は当面なく銀行預金の出入りをもって管理すること、取引に関わる証拠書類の管理を正確に行うこと、製品の販売時に製造材料への振替を行うなど、地道に管理体制を強化したいと考えております。また、第3期以降における商取引の増大に伴い、この管理方式はフレキシブルに変化対応させていく必要がでてくると思われますが、神谷税理士との協議を重ね、詳細に検討を進めたいと考えております。

株主様への配当を少しでも多くしながらも当社の利益率をあげることで、積極的かつ適正に納税を行うことで、社会への貢献を進めたいと考えています。

#### 5. 会社の株式に関する事項（平成20年10月31日現在）

株式の状況

発行株数 1,000,000株

株主数 1名

株主名簿

瀧口義浩 1,000,000株（出資率100%）

#### 6. 会社役員に関する事項

氏名	会社における地位	担当など
瀧口義浩	代表取締役	会社運営、基礎研究所運営
瀧口繁次	監査役	会社会計監査